

第2回ユネスコスクール関東ブロック大会(2021)

第4分科会 報告校学校紹介

神奈川県ユネスコスクール連絡協議会

○ 第4分科会では本協議会メンバー8校が活動報告を行います。1校当たりの発表時間が短いため一つの活動に絞って発表します。他の活動状況や学校紹介ができないため、この場で各校学校紹介を行います。事前に目を通していただき、当日の発表の際の参考にしていただければと思います。

<横浜市立永田台小学校>

〒232-0075 神奈川県横浜市南区永田みなみ台6-1

児童数：406名

本校は、2010年10月にユネスコスクールに加盟し、ホールスクールアプローチでESDを中心にした学校づくりを行ってきました。教職員同士の対話を大事にしながら学校づくりをしています。「永田台小学校のESDとは何か？」を教職員で対話をし続けることで、教職員の異動がある中でもESDが教職員の心にじわじわと染み込んでいます。本校のESDの根源的に流れているものとは、「ケア(Care)」の精神なのではないかと考えています。ケアとは、自分自身を気づかうものであり、親密な他者だけではなく、見知らぬ人や遠く離れた人に対しての思いやり、動物や植物や地球に対する気づかいと捉えています。

自らの問いを大切に、解決に向けて探究的に学習を深める「生活・総合的な学習の時間」を柱に、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を明確にし、ESDの質を高めることにチャレンジをしています。また、取り組みはSDGsにもつながり、とくに、SDGs11番「住み続けるまちづくり」につながっています。ESDの成果は、地域にも確実に現れ、高齢者の多いことが課題の地域に活気があります。また、長年にわたる持続可能な環境教育の取組と地域と一体となった取組が高く評価され、今年度「横浜環境活動賞大賞」を受賞しました。

「子どもの元気が、地域の元気に！」今回は、本校の子どもたちが夢中になって学び続け、地域変容へとつながった姿をお伝えします。

<横浜市立幸ヶ谷小学校>

〒221-0051 神奈川県横浜市神奈川区 幸ヶ谷1丁目1

生徒数 745名

本校は、創立93周年を迎えた歴史のある学校です。横浜港に近い位置にあり、学区内に

歴史的な名跡も多くあり、まちに誇りと親しみをもつことができる地域です。一方で、近年は急激な児童数の増加に伴う新たな問題に直面しています。

しかしながら、地域の協力体制は整っており、PTA 活動の他、おやじの会、幸ヶ谷共育倶楽部などが積極的に学校の教育活動を支えてくれています。特に共育倶楽部に関しては、登録人数は200名以上となっており、その実績は『地域学校協働活動推進にまつわる文部科学大臣表彰』で評されるなど高い評価を得ています。

また、ユネスコスクールに登録して9年になり、生活科・総合的な学習の時間の実践を中心に今まで取り組んできており、横浜市長賞や環境大臣賞を受賞するなど、授業実践も高い評価を得ています。さらに、ホールスクール・アプローチの観点から、この2年で約80個の校務改善に取り組んでおり、教職員のESDに対する意識は高まっています。

現在も、コロナ禍における様々な課題に向き合いながら、学校教育目標の達成に向けて、取り組んでいます。今回は特に本校が近年、力をいれてきた「リフレクション」の活動について発表する予定です。

＜横浜市立市ヶ尾中学校＞

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町531番地の1

生徒数 570名

本校の教育理念は『自立貢献』です。生徒一人ひとりが社会とのつながりを大切にしながら、身近にある課題と向き合い、解決のために自ら行動し、社会に貢献できる生徒の育成を目指しています。

ユネスコスクールへの加盟は2012年に認定され、また2016年度に横浜市のESD推進校になり、中学校で行われるすべての教育活動をESDの視点で捉え直し取組を進めています。

本校が数年前から取り組んだテーマは海洋プラスチックごみ問題です。この問題について学習を進め、中学生である自分たちにできることを考えていく中で、レジ袋の削減を取り上げ、全校生徒が持つ学校オリジナルマイバッグを作成し全校生徒に配付しました。生活に欠かせない物となっているプラスチック製品が、重大な環境問題を引き起こしていることを学び、身近な問題であることを認識することができました。昨年度はこの活動を地域に広げる活動を生徒会役員が進めました。

今回は昨年度コロナ禍において試行錯誤をしながら実践したことと、今までの環境課題を受け継ぎつつ新たにスタートさせている取組について発表する予定です。

＜湘南学園中学校高等学校＞

〒251-8505 神奈川県藤沢市鶴沼松が岡 4-1-32

在校生 962 名

1933年に創立。特定のオーナーを持たない「PT共同経営」。幼稚園から中高まである男女共学校の私学です。中高クラス規模は約40名×5クラス。学年スタッフは8名ですが、もう少し1クラスを少人数にしたいところ。/ 変形労働時間制に伴い、教員には各々「研修日」が設定されており、全員出勤日の木曜以外は、各学年5～6名のスタッフで、約200名の生徒たちに対応しています。授業の持ちコマ数は、平均16時間程度。分掌会・学年会を入れると、18時間から20時間。理科・社会では、一人が2種類3種類、あるいは4種類を担当するのも当たり前となっていますが、専任率は約70%と、私学の中では高い方かと思います。/ 建学の精神は、「個性豊かにして身体健全、気品高く、社会の進歩に貢献できる、明朗有為な、実力のある人間の育成」2013年、それまで20数年続けてきた総合学習が評価され、ユネスコスクールのネットワークに参加することができましたが、「外」に働きかける活動という点では、まだまだ一部の生徒が活躍するプロジェクトにとどまっています。ただ、生徒会自治を通じて、「学校を変え、社会を変えるのは自分たち」という認識の芽は育ってきているかな…と思います。

＜特定非営利活動法人 横浜シュタイナー学園＞

〒226-0016 神奈川県横浜市緑区霧が丘3-1-20

児童生徒数 126名

<https://www.unesco-school.mext.go.jp/schools/list/yokohama-steiner-school/>

本学園は、シュタイナー教育を実践する小中一貫のフリースクールです。横浜郊外の緑豊かな地域で「学びを芸術にまで高める」、そんな理想を育んでいます。2011年1月にユネスコスクールに加盟、2016年にはユネスコスクール神奈川県大会の会場校として大会の企画運営を担当。同年9月には、文部科学省ESD重点校となり、サステイナブルスクールの呼称をいただきました。

本学園の学びの特徴は、通常の学びの積み重ねが、そのまま地球市民教育となり、多文化共生の学びとなり、ESDとなるということです。2014年のユネスコスクール世界大会ではこのことが評価され、大会の優良事例集に収録していただきました。

それらは、有機的なカリキュラムと教科間連携、芸術性の高い教授法、非常に大きな教員の裁量から生み出されます。そして、そんな生き生きとした学びの活動基盤を、保護者が学校とともに運営し、つくり上げていくという文化が支えています。

昨年来のコロナ下では、このような連携と自由裁量に基づいて、制約下でも可能な豊かな学びを創造する取り組みを様々に重ねました。今回は、そんな経験も踏まえながら本学園の

学びをお伝えしたいと思います。

＜横浜市立東高等学校＞

〒230-0076 神奈川県横浜市鶴見区馬場3丁目5番1号

生徒数 813名

ホームページ URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/hs/higashi/>

2022年、創立60周年を迎える横浜市立東高等学校は、地域に根差した学校です。地元のお祭りの手伝いや地域の小中学校との交流やボランティア活動など人と人とのつながりを大切にしてきました。古くから帰国生や留学生の受け入れを行い国際色豊かな校風です。そのような特色が認められ2018年にユネスコスクールに認定されました。ESD推進校としても横浜市内の学校において先駆的な取り組みを行っています。今回は高校一年生が体験する「Glocal Citizenship Camp」について紹介します。2日間留学生たちとAll EnglishでGlobal Issueについて話し合います。Globalな課題に対して自分の足元からできることを模索し行動につなげています。また横浜市内の企業のみなさまに来校していただくPremium Programでは、それぞれの企業のみなさんから直接お話を伺いキャリアや社会貢献についても学んでいきます。総合的な探究の時間（東にちなんでイーストタイムと呼んでいます）を軸として教科横断的な学びに力を入れている点も本校の特色です。他にもESD委員会やサステイナブル研究の活動などご紹介しきれないくらいたくさん活動があります。彩鮮やかな東高校をぜひみなさんに知ってもらえたらうれしいです。

＜横須賀市立横須賀総合高等学校＞

〒239-0831 神奈川県横須賀市久里浜6丁目1番1号

生徒数 955名

本校は、2003年に横須賀市立3校（横須賀高校、商業高校、工業高校）が統合されて総合学科高校として開校し、創立19年目を迎えています。国際教育と情報教育に力を入れており、年間を通して様々な国の高校生が本校を訪れ交流をしたり、生徒全員がタブレット型PCを所持し、授業や学校生活で活用したりしています。

本校は、ユネスコスクールに正式に登録されてはませんが、2018年度からSDGsを意識して各種の取り組みを行っています。保健委員会が校内で回収したコンタクトレンズケースを現金化して日本アイバンク協会へ寄付するecoプロジェクトに参加したり、学級委員会がペットボトルキャップを回収して、開発途上国へのワクチン支援活動に役立てたり、国際委員会がユニクロの「届けよう服のチカラプロジェクト」に参加し、回収した子供服を難民キャンプへ寄付したりしています。また、授業では、「産業社会と人間」や「羅針（総合的な探究の時間）」で課題研究を行う際に、SDGsの目標を意識した研究テーマ作りをしています。

ます。今回は本校の SDGs に関する取り組みについて発表する予定です。

＜神奈川県立有馬高等学校＞

〒243-0424 神奈川県海老名市社家 240

生徒数 944名

本校は2018年度まで英語コースの設置や在県外国人等特別募集の実施が行われてきたことを背景に、国際理解教育を積極的に推進してきました。こうした教育環境のもと2008年にはユネスコスクールに加盟し、以後、国内外のユネスコスクールと協働で様々な活動を積極的に実施してきました。活動の一環として「ユネスコ委員会」を立ち上げ、姉妹校訪問団の受け入れ事業運営、服のチカラプロジェクトの推進など学校全体でユネスコ活動や国際交流活動に取り組むためのコーディネーター役として、メンバーたちの活躍が期待されます。

2018年度には加盟10周年の区切りを迎え、SDGsとESDをテーマとした授業も実施してきました。今後も委員会、クラブ活動、学級、学校全体など、それぞれの場と機会に応じた形でESDの推進、SDGsへの取り組みなどを行っていきます。国内外の学校と協働プログラムや交流活動を実施することができたらと考えています。2019年度より教育課程研究開発校の指定を受け、「総合的な探究の時間～SDGsをテーマとした展開に係る研究～」の研究開発に取り組んでいます。SDGsをテーマとした探究的な活動を行っています。今回は本校のSDGs・ユネスコに関する活動について発表する予定です。

(以上)